

As Time Goes By

You must remember this,
A kiss is still a kiss
A sigh is just a sigh
The fundamental things apply
As time goes by

これだけは忘れないでいて
キスといえば キスをすることだし
ため息といえば やっぱりため息をつくことなのよ
誰かを好きになり夢中になる根本的なものは変わらない
どんなに時代が流れようとも

And when two lovers woo,
they still say "I love you"
On that you can rely
No matter what the future brings
As time goes by

恋人たちが愛を伝えるときは、今でも
「私はあなたを愛している」と言うし、
そのことで絆が深まる
この先、これは決して揺るぐことはない
どんな未来が訪れようとも

Moonlight and love songs
never out of date
Hearts full of passion,
jealousy and hate
Women needs man and man
must have his mate
That no one can deny

月の光も愛の歌も 決して時代遅れにはならないし
恋人たちの心は、いつでも
情熱と、嫉妬と、
憎悪で満ちているわ
女には頼れる男が必要だし
男にはいつもそばにいてくれる人がいるべきで
そんなことを否定できる人なんていない

It's still the same old story,
A fight for love and glory
A case of do or die
The world will always welcome lovers
As time goes by

男と女がいる限り これは今でもまったく変わってない
本当の愛と幸せをつかむためのケンカも
うまくいったり、いかなかったりすることもあり
そして、世界はいつでも恋人たちを受け入れてくれる
そう、どんなに時代が流れようとも

映画『カサブランカ』の中で、主演のハンフリー・ボガードが、自分の店で心落ち着かせるとき、信頼する使用人に歌わせる歌である。かつて、パリで恋をして、裏切られ、この地にたどり着いて、店を持ち経営しながら、世界の情勢の中で流れ着く同じ星のもとにいる人々を見つめて過ごしている。

しかし、かつての恋人のイングリッド・バーグマンが新しい恋人とアメリカ亡命のためにこの地を訪れ、この店を訪れた時に、「その歌はよせ」と使用人にいう場面があった。かつての恋人との思い出が詰まった歌だったのである。

傷ついた昔の思い出の中に戻りたくない男の悲哀と、その後、かつての恋人とその愛人をアメリカニューヨークに向かわせた男の純情がとても心に響いた記憶がある。

私もいつかかっこよく生きてみたいと思った。でも、そんなにかっこよくは過ごして来れなかった。でも、ちゃんと前を見つめてはきた。戦う心は失くさなかった。

The world will always welcome fighters as time goes by.